

ひと

ターミナルの荷待ち問題にメスを

東ト協海コン専門部会長
宮治 豊 氏



ンテナ輸送）。6月4日の総会で部会長に就任した。「『2024年問題』をきっかけに、工場や倉庫など顧客のファシリテイで荷待ちを減らす取り組みはかなり進んできたが、ターミナルでの荷待ちについてもメスを入れるべきだ。部会として改善を働きかけていきたい」と意欲を見せる。

のトラック輸送では、『トラックGメン』の働きかけにより、荷待ちの解消に大きな効果があったとも聞いている。ターミナルでの荷待ちについても、『トラックGメン』から、ターミナルあるいは（用地を貸している）東京都に改善を働きかけることを期待している」。また、トレーラの4割増しと定められた海上コンテナ車両の「標準的な運賃」について、「現行の運賃水準と比べ非常に高いが、国が示した目安であり、これを運賃交渉に活用していくべき」と話す。

東京港のコンテナターミナルの待機時間は、荷量の減少も背景に全体としては改善傾向にある。足元では特定のターミナルでの荷待ちが問題となっており、「（拘束時間の影響を受けやすい）内陸部の海コン業者ではストレスが大きくなっている」。これまでも部会として改善の申し入れを行ってきたが、海コン輸送において、運送会社は荷主あるいは海貨業者とは契約関係がある一方、コンテナの搬出入起点であるターミナルとは契約関係がないため、改善への動機づけが働きにくい構造にある。

そこで期待しているのが、「トラックGメン」だ。「一般に海上コンテナ輸送業界にとってコンテナターミナルでの荷待ちには大きな問題だ。現在は荷量が少ないため比較的小さまわっているが、今後、荷量が増えてくれば再びターミナルが混雑し、長時間の荷待ちが発生しかねない」と指摘するのは、東京都トラック協会海上コンテナ専門部会の宮治豊部会長（日本コ

足元の東京港の荷動きは盛り上がり、将来的にも「人口の減少と高齢化により国内の消費量が減り、食品をはじめとした輸入の減少が見込まれる。円安も長期化が予測され、輸入品の価格が上昇しているため、一部では国産に切り替える動きも出てきた。そうすると、海コン輸送の取扱量は減ってしまう。輸入がメインの海コン輸送は、冬の時代を迎える可能性もある」との危機感がある」と指摘する。

JHRネットワークS／フジトランスポート

緊急時の代車手配を保険補償で

東京海上日動と提携し利用者の負担減

JHRネットワークサービス（本社・東京都港区、西方麻衣社長）とフジトランスポート（本社・奈良県奈良市、松岡弘晃代表取締役）が提供する、大型車両の緊急時代車手配サービス

ス「イザトラ」がより利用しやすくなった。東京海上日動火災保険との提携により、6月から運送保険の補償として同サービスの提供を開始。トラック事業者は事故発生時やトラック故障

時に保険で代車手配サービスを受けられるようになる。

JHRネットワークサービスとフジトランスポートでは2021年に共同事業として、「イザトラ」を立ち上げた。車両故障などのトラブルが生じた場合、代車を手配し、顧客に代わって荷物を納品先に配送するサービスで、代車の手配、積み荷の積み替え、配送、納品までを迅速かつワンストップで提供す

る。

代車の提供をフジトランスポートが担う。同社は大型車を主体にグループで3000台、協力会社も合わせると5000台の車両を稼働させており、全国規模で対応が可能。荷物の積み替え場所としてディーラーの整備工場が利用しにくい場合、フジトランスポートの100カ所超の拠点も利用できる。

レッカー車およびレンタカーの手配も同時進行で行える。トラブルが発生した場合、コールセンターに連絡し、レッカー車と代車を手配。レッカー車が整備工場等に故障車を運び、フジトランスポートが提供する代車に荷物を積み替え、同社のドライバーが納品先に輸送。故障車両のドライバーの帰宅用にレンタカーも貸し出す。

トラック事業者がトラブルなどで荷主と約束した日時に荷物を届けられないと、信用が失墜し、取引の縮小や停止につながる。

るリスクもある。ただ、費用がネックとなり、代車手配サービスの利用を躊躇するケースもあった。そこで、東京海上日動火災保険と提携し、同サービスを保険の補償として提供する新たなスキームを構築した。

具体的には、東京海上日動火災保険が6月から、緊急時に代行輸送手配サービスを提供する運送保険の販売を開始。保険金の支払いに代えて、代車および代車を運転するドライバーを提供するもので、トラブル発生時に専用のコールセンターに連絡するだけで保険補償として「イザトラ」のサービスを受けられるようになった。

「イザトラ」の依頼受付は専用のフリーダイヤルで24時間365日体制。沖縄、離島を除く全国をカバーし、依頼から現場到着まで最短で1時間程度。代車の種類として大型車・中型車をはじめ冷凍車、冷蔵車等のラインナップをそろえており、積

み替え作業では、フォークリフト荷役だけでなく、ばら積み貨物にも対応する。



ワンストップで代車配送が可能に

ANAファシリティーズ

AM第1号物件の 物流施設が名古屋で竣工

ANAファシリティーズ（本社・東京都中央区、丹治康夫社長）は11日、名古屋港区で物流施設「エルオージェイ1」（写真）を竣工したと発表した。延床面積は約4132㎡で、同社のアセットマネジメント事業第1号物件。1日から賃貸を開始し、自家用倉庫として順次稼働予定。

名古屋臨海高速鉄道あおなみ線「野跡」駅より徒歩1分、伊勢湾岸自動車道「名港中央IC」より約3・8km（車で6分）に立地。東棟・西棟の2棟構成の倉庫兼事務所で、倉庫部分は1階、事務所スペースは2階に設けている。

ANAグループ唯一の不動産会社である同社は、物流施設な

